



第5回「グローバル教育発表会」

2月4日（土）、今年で5回目となる「グローバル教育発表会」が開催されました。来賓として、関西国際大学の山下泰生副学長、いつも「出前講座」等でお世話になっている三木市国際交流協会の河越恭子さんの他、中学生や保護者の皆さま、そして、フィールドワーク等でお世話になった方々も続々と「応援」に駆け付けてくださり、盛大な行事となりました！

第1部は視聴覚教室と会議室とで合計8グループがパワーポイント発表。2年生の4グループは英語でのプレゼンテーションを行いました。両会場とも立ち見が出るほどの盛況ぶり、発表後の質疑応答も非常に熱い時間となりました。

第2部は、中学生は視聴覚教室で本校ALTと一緒に「ミッキーフェスティバル」と題し、ほぼオール・イングリッシュに近いクイズ形式のイベント（「バーチャル・ワールド・ツアー」）を行いました。中学生たちはALTの英語に熱心に聞き入り、メモも取りながらクイズに挑戦し、楽しく有意義な時間を過ごしていたようです。

また、1・2年生と一般の参加者は、体育館で8つのグループのポスター発表を聞き、こちらでもまた熱い質疑の時間が繰り広げられました。ポスター発表も2年生は英語での発表。英語での質問に少しタジタジしながらも懸命に答えようとする姿が印象的でした。

冒頭の学校長のあいさつ、そして、閉会時の山下泰生先生からの講評でも「探究学習」の重要性に触れられ、時代の変化に伴い、学びのスタイルが変化しつつあることが述べられました。進化し、深化した本校国際総合科の学びの姿を見ていただく好機会となりました。



1年生のパワーポイント発表



体育館でのポスター発表（2年生／英語）



ミッキー・フェスティバル



スタッフを務めてくれた3年生に感謝！

★ 1・2年生の発表タイトル一覧

【パワーポイント発表】

1年生 [日本語発表]

- 「小さな一歩と大きな一歩」(1班)
- 「『私』が着たい制服」(3班)
- 「こんな生物も?! 三木市の外来生物とは」(5班)
- 「地域活性化大作戦!」(6班)

2年生 [英語発表]

- 「みんな間違えてない? ヤングケアラーの事実」(A班)
- 「トカイナカミキ」(B班)
- 「For Green Miki」(D班)
- 「with golf」(G班)

【ポスター発表】

1年生 [日本語発表]

- 「よりよい教育の場を目指そう」(2班)
- 「いじめ今昔物語」(4班)
- 「三木から考える防災」(7班)
- 「平和のために私たちができること」(8班)

2年生 [英語発表]

- 「Gender」(C班)
- 「Bangladeshへの支援」(E班)
- 「A Better Life for All」(F班)
- 「Yamada-nishiki around the world」(H班)



★ 「グローバル教育発表会」当日のアンケートより (抜粋)

2年生の英語発表に感動しました。いろいろな分野に取り組んで発表され、世界にも通用する大人になっていくのだろうなあと感じました(高校保護者) / テーマが多岐にわたり、その中で高校生らしい視点で考察している点が印象に残った。フィールドワークを行い、探究学習として深みのある活動になっていると思いました(他校高校教員) / クイズがあったり、聞いている側が楽しめる要素があってとても良かったです!(中3) / 社会問題にこのように取り組むことを高校でできることが本当に貴重だと感じました(中学保護者) / 学校のカリキュラムが英語力のみならず、プレゼン力の育成にも力を入れていることが感じられ、貴校の魅力を確認することができ、有意義でした(中学保護者) / 地域を活性化、また、交流する場となっていて良かった(中3) / 若い世代の人たちが問題意識を持つすばらしさを見ることができて良かったです。この問題提示したものを今後さらに活かしてもらいたいと感じました(その他) / 来年度、僕ががんばります(中3) / こうこうせいで、グローバルもんだいをいろいろ気にしているのをとてもよいとかんじました。私がせいとのときはそんなはっぴょうとかはなかったので、きょうのこのはっぴょうにさんかしてうれしいです(interviewee(外国人)) / 内容にも深みがあり、答え方も大変丁寧で、気持ちよく聞かせていただきました。どのグループにも“Think locally, Act globally”の精神・視点が感じられ、好印象を持ちました(他校高校教員) / 探究学習そのものが良いことだと思います。いろんな方々と関わりあい、探究を深めていくことはいいことです。まとめるのが上手だと思うし、考えて人に伝えることも良いことです(その他) / 質疑応答の機会を設けてくださったので、より発表が理解できて良かったです(中学保護者) / グループを作りそのことについて考えたりしていて、私もこれをきっかけに考えておきたいです(中2)

tagebuch im ausland studieren

『独日 留学日乗』

ドイツからの留学生・小林克海セドリックさんにとっては、毎日が目新しいことだらけの様子。毎日英語の「日誌」を提出してくれているのですが、その中からトピックスを紹介します。

1月の石垣島研修旅行では、最終日にビーチで行われたライブ、BBQ、そして花火が特に印象に残ったとの話。ドイツでは電車で旅行をすることが多く、クラスみんなで飛行機に乗ったのも楽しい思い出だったようです。

イラストは、クラスメイトのA・Mさんです。





続・第5回「グローバル教育発表会」

前号でその様子をお伝えした今月4日（土）の「グローバル教育発表会」です。今回は、発表をしてくれた国際総合科1・2年生の声をお届けします。

★1・2年生の発表タイトル一覧（再掲）

【パワーポイント発表】

1年生（日本語発表）

- 「小さな一歩と大きな一歩」（1班）
- 「『私』が着たい制服」（3班）
- 「こんな生物も?! 三木市の外来生物とは」（5班）
- 「地域活性化大作戦!」（6班）

2年生（英語発表）

- 「みんな間違えてない? ヤングケアラーの事実」（A班）
- 「トカイナカミキ」（B班）
- 「For Green Miki」（D班）
- 「with golf」（G班）

【ポスター発表】

1年生（日本語発表）

- 「よりよい教育の場を目指そう」（2班）
- 「いじめ今昔物語」（4班）
- 「三木から考える防災」（7班）
- 「平和のために私たちができること」（8班）

2年生（英語発表）

- 「Gender」（C班）
- 「バングラデシュへの支援」（E班）
- 「A Better Life for All」（F班）
- 「Yamada-nishiki around the world」（H班）



★当日のアンケートより、本校生徒の声（抜粋）

地域、そして国、世界で問題になっていることを自分たちでできる範囲で活性化、あるいは解決するために意見や企画などをして、とても良い雰囲気だった/みんな積極的で素晴らしい発表会になりました/6班の質疑応答がすごく良かった。フェスが実施されるのが楽しみだと思いました/それぞれの班が三木市をより良くしようとしていることが伝わってきて、とてもいい発表だと思いました/質疑応答があったので発表への理解がより深まってよかった/フィールドワークをもとに発表していたので良かった/それぞれのグループが練習から一生懸命に取り組んでいたのが分かるものでした。プレゼンカも上達していたし、アイコンタクトなどで観客を意識して発表できていたのでとても良かったです/自分にはない考え方が聞いて考えが広がりました（以上、1年生）/昨年とは違い会場を分散して行ったのは面白い取り組みだったと思います。自分たちの発表の際には、たくさんの方々にご覧いただけて良かったです/聴衆の方を頑張ってみようとした。各班が工夫を凝らし意見を伝えようとしていた/みんなジェスチャーをしたり、とても



明るく面白いプレゼンでした。1年生もゆっくり丁寧に発表しており、2年生もすらすらと英語が話せており、素晴らしかったです/新しい知識をたくさん得ることができました。探究活動が2年で終わってしまうのはもったいないなと思いました/各班それぞれ伝えたいことを強調して伝えていてよかったと思います/初めて有観客で発表してみて、生の声が聞いてとても良かったです（以上、2年生）

3月もイベントが目白押し！

学年末考査、卒業式が終わった3月も、国際交流・探究学習関連のイベントが目白押しです。以下、幾つか紹介します。

(1) 三木市国際交流協会「出前講座⑥」(3月2日(木) 13時45分～15時35分/調理室)

毎学期末に行っている「出前講座」。今回は、「来て、見て、食べて ～在住外国人の食卓から～」というタイトルで、料理を通じての国際交流を行います。ゲストはインドネシア出身のアミ・パッチャワナルワティさんと、シリア出身のハサン・バダウイさん。普通科で参加を希望する生徒は、2月27日までに国際・探究推進部(守屋・土井)まで申し出てください。

(2) 「グローバル講演会」(3月15日(水) 14時～15時/視聴覚室)

普段交流を行っているKamiak高校の井上善誉先生を招き、「What's up, Miki? シアトルからこんにちは」という題でお話をさせていただきます。今後、Kamiak高校と本校との間では生徒の行き来も始まる予定。日頃よく本校に取材に来られる井上先生から、ぜひKamiak高校の様子について、お話を聞いてみましょう！こちらも、普通科の皆さん、大歓迎です！(こちらも、申込みは国際・探究推進部まで。)

その他、3月16日(木)には、普通科を中心とした「『総合的な探究の時間』学年発表会」を行う予定です。今年度1年かけて行ってきた探究活動の成果を互いに発表し合い、「探究的な学び」について考える時間となればと思っています。1組(国際総合科)の代表班にも発表してもらう予定です。

*** **

まだまだ寒い日が続きますが(2月7日)、立春を経て季節はもう春です。

昭和の時代、「春という字は三人の日と書きます～」で始まる歌がありました(調べてみよう)。確かに三十人+日=春となりますが、「春」の異字は「普」(というか、「普」の異字が現在広く使われている「春」?)、それを遡^{さかのぼ}って漢字の原型：甲骨文字では「𠄎」で、左に上下に2つの「木」の間に「日」、右に潜り込んだ根が発芽する「屯」が配置され、「太陽の光が強くなり草木が生え出す時期」を表しています。

このように、原型が象形文字である漢字は、事象や概念の数に応じて無限に思えるほど多数存在し読みも個別で覚えるのが大変な一方、見たら概容が推察できる「表意文字」。一方、アルファベットやハングル、かな文字など「表音文字」は、どんな呼称でも少数の記号で表記できて読みも容易ですが、並んだ文字を見てもどんなものかは分かりません。

日本語は、両者を組み合わせてイイとこ取りで表記する(かな文字も「ひらがな」「カタカナ」を使い分けます)ので、何でも記録できるしその内容も理解できます。外国の方には日本語(の特に「読み」「書き」)は難解ですし、みなさんも漢字の習得に苦しみますが、そのお陰で豊かな言語文化が存在し、学問・研究も発達しました。

日本語のように、長年続いてきたこと(文化)には、一見「煩雑で効率が悪い」が広い視野で見ると大きなメリットがあるはず。効率・利便性(「コスパ」「タイパ」)の面から「グローバル」スタンダードを志向するのは時代の流れですが、「ローカル」の持長にも目を向け、それを活用するダイバーシティ(多様性)社会を目指しましょう。

[国際・探究推進部長 田尻 淳]

tagebuch im ausland studieren

『独日 留学日乗』

ドイツからの留学生・小林克海セドリックさんにとっては、毎日が目新しいことだらけの様子。毎日英語の「日誌」を提出してくれているのですが、その中からトピックスを紹介します。(考査前なので今回はA・Mさんのイラストは無しです。)

修学旅行を機にクラスメイトともすっかり仲良くなった克海さんですが、実は、普段授業に出ていて、「日本の高校生は授業中に寝てる子が多いなあ…」と冷静にその様子を見ているようです。皆さんは、どう感じますか？